

トウヒシロップ

Orange Peel Syrup
橙皮シロップ

製 法

トウヒチンキ	200 mL
単シロップ	適 量
全 量	1000 mL

以上をとり、シロップ剤の製法により製する。ただし、「単シロップ」の代わりに「白糖」及び「精製水」適量を用いて製することができる。

性 状 本品は帶褐黄色～帶赤褐色の液で、特異な芳香があり、味は甘く、後に苦い。

比重 d_{20}^{20} : 約 1.25

確認試験

本品 25 mL に酢酸エチル 50 mL を加え、5 分間振り混ぜた後、放置し、澄明に分離した酢酸エチル層を分取する。水浴上で蒸発した後、残留物をエタノール (95) 10 mL に溶かし、必要ならば過して試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ用ナリンギン 10 mg をエタノール (95) 10 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5) /水混液 (8:2:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液を均等に噴霧し、アンモニアガス中に放置するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは標準溶液から得た灰緑色のスポットと色調及び R_f 値が等しい。

貯 法 容 器 気密容器。

トウヒチンキ

Orange Peel Tincture
橙皮チンキ

製 法

トウヒ、粗末	200 g
70 vol% エタノール	適 量
全 量	1000 mL

以上をとり、チンキ剤の製法により製する。ただし、70 vol% エタノールの代わりに「エタノール」及び「精製水」適量を用いて製することができる。

性 状 本品は帶黄褐色の液で、特異な芳香があり、味は苦い。

比重 d_{20}^{20} : 約 0.90

確認試験 本品 5.0 mL にエタノール (95) 5 mL を加え、必要ならば過して試料溶液とし、「トウヒ」の確認試験を準用する。

アルコール数 6.6 以上 (第 2 法)。

貯 法 容 器 気密容器。

トウモロコシデンプン

Corn Starch
AMYLOUM MAYDIS
トウモロコシ澱粉

本品はトウモロコシ *Zea mays* Linné (Gramineae) の種子から得たでんぶんである。

性 状 本品は白色～微黄白色の塊又は粉末で、におい及び味はない。

本品を鏡検するとき、球形又は多角形で大小不同、径 3 ~ 35 μ m、多くは 9 ~ 18 μ m の単粒からなり、へそは中心性で、しばしば放射状の裂け目となり、層紋は明らかでない。

本品は水又はエタノール (95) にほとんど溶けない。

確認試験

(1) 本品 1 g に水 50 mL を加えて煮沸し、放冷するとき、混濁した中性ののり状の液となる。

(2) 本品はヨウ素試液を加えるとき、暗青紫色を呈する。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、他のでんぶん粒を認めない。また、原植物の組織の破片を含むことがあっても、極めてわずかである。

乾燥減量 15.0 % 以下 (6 時間)。

灰 分 0.5 % 以下。

トウモロコシ油

Corn Oil
OLEUM MAYDIS

本品はトウモロコシ *Zea mays* Linné (Gramineae) の胚芽から得た脂肪油である。

性 状 本品は淡黄色透明の油で、においはないか又はわずかににおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルと混和する。

本品はエタノール (95) に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

本品は -7 °C で軟膏ように凝固する。

比重 d_{20}^{20} : 0.915 ~ 0.921

酸 価 0.2 以下。

けん化価 187 ~ 195

不けん化物 1.5 % 以下。

ヨウ素価 103 ~ 130

貯 法 容 器 気密容器。

トコン

Ipecac
IPECACUANHA RADIX
吐根

本品は *Cephaelis ipecacuanha* (Broterol) A. Richard 又は *Cephaelis acuminata* Karsten (Rubiaceae) の根及び根茎である。

本品は換算した生薬の乾燥物に対し、総アルカロイド (エメチン及びセファエリン) 2.0 % 以上を含む。

性 状 本品は屈曲した細長い円柱形を呈し、長さ 3 ~ 15